

広報 ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 総務課 電話 (018876) 代 2100番
印刷所 湖東 印刷所 電話 (018876) 2430番 (一部 五円)
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

秋期農作業の安全運動推進

今年も秋の収穫期がやってきたが、年々多くなる農作業機械等による事故の絶滅を期するため、10月を安全月間と定め、この運動を広く推進することになった

- 記
- 1、収穫機械の故障は、忙しいときに起こりがちです。から、まず機械の点検整備を十分行なうこと。
 - 2、収穫物の運搬時の荷重過剰のための事故防止を図ること。
 - 3、服装には十分注意し、作業環境を頭に入れて作業すること。

体育の日にあたって

10月10日は体育の日である。

体育が今日的な姿になるまでには、歴史的に今では想像のおよばない余曲折があった。

遠く古代ギリシャでは、体育が市民の間で愛され、重要視され人間の調和的発達のため生活の中で欠くことのできないものとして、現代に共通する点も多かったが、ローマ時代には丈夫で長持ちのする軍人を育成する道具に利用され、第二次大戦中のわが国と同じく国家主義的色彩が濃厚になってくる。更に中世社会においてはキリスト教の影響で、肉体は感覚的で罪深いものとされ、体育は軽視されるにいたった。しかしその後1920年頃からは、スポーツ、体操遊戯をふくめて各種の運動が総合的に行われる時代となった。

わが国では、明治以前の時代には、教育という明確な目標もなく体を養生する方法として用いられ、武術など競技の形は存在したにしても、現代のように社会的な調和を前提にしたものではなかった。

人間は不幸にして、皮フの色と言葉と経済能力の違いで、高い理想とはうらはらに、宇宙船が月へ到達する現代でも、その歴史を戦争という最も原始的な殺し合いの血でいろどっている。しかしこの中で、人間らしい一服の清涼剤がある。それはスポーツである。このルールの前には、皮フの色も、言葉の違いも、大国であるがゆえのわがままも許されない。戦争のさ中でも、人類が最も人間性を回復できる場としてオリンピックの開催が待たれるゆえんである。

身体の健全な発達、精神の健全な発達につながる、ひいては、社会の調和に果す潤滑油としての役割は大きい。

体育の日にあたって、本町の体育の振興とその果す役割をみんなで考えてみてはいかががでしょうか。

写真はチビツ子力持ちの一年生へ五小で



広報サロンの 老いらくの軌跡



石崎 加藤 裕

夏の賑わいの去った新秋の東海で七十歳近い穴口頭連中の毎年恒例の同級会。現存者五十九人のうち集まる者三十一名、遠く県外から来た者もあるだけあって意気高らかである。少年末期の四年間、師範の全寮制度のもと同じ釜の飯で鍛錬し、次第に友情が五十年來生き続けて、次第に顔の歯の抜けるように一人一人と亡くなるのを前みながらも、同級会は催されてきた。

教育者を目標として訓育され、後にはそれ体験の持主たちで一城の主となった体幹の持主たちである。言わば同心円の軌跡を通つて来た連中で共通した経歴をふまえて談笑し合うことが、この老いらくの境にあつての生き甲斐である。

夕暮の海を見渡しながらの談論風発は、あけすけで遠慮会釈もない。何を言つても叱られないのが特色だ。老いは老いなりに胸にわたるかもあるが、一年ふりではぐされるわけである。在職中は卒業する生徒の求めによって、よく一書い出は笑し、望みは光あれと書い出は笑したものだ。わが思い出の中にはほぞを噛むような無根柢なものであつたり、それは性格的無意でもあつたり、時勢の要請であつたりで不可避であつた。それが年経たれて認識され、丸弁華された、責任の地位に在つて微力ながらも一杯一杯やつたという自負から来る思い出の美しさが救い合はつて肩を叩きながらのホラの吹き合ひとなるのである。

ところどころの連中、五城目で校長をやつた者が十人も、次回はこの町でその軌跡を回想し、老いらくの年輪に色彩を添えたいと思つている



一般会計 646百2千1万94円補正
予算総額 6億249百1万1千円どなる

去る17日招集された、五城目町議会9月定例会は、提出され……
た八案件を原案どおり可決し、23日7日間の幕を閉じた。

見出しの一般会計646百のころを6千6百と予算総額6億243百を6億2千9百と訂正します

町道の路線認定について
馬場目中村線を町道に
町道の路線認定について
富田下川原線を町道に
町道の路線認定及び廃止につい
て

小野村水沢線の一部曲線を直線
化するため、新設部分を認定し
整備部分を廃止する。

立木の買い受けに関する件
立木伐採については五城目町森
林組合に委託し、素材について
は、町内業者を対象に売渡し、
労働力の町外流出の防止と、町
内産業の発展をねらいとするも
の。

昭和四十六年度五城目町一般会
計補正予算(二号)

歳入歳出にそれぞれ六千六百二
十一万九千円を追加し、予算の
総額は六億二千九百一十一万
となった。

歳入では
町税 六千八百九十九万四千円
町民税、固定資産税、都市計画
税等における所得の増及び資産
評価額の伸びによる。

地方交付税 六千六百二十二万七千円

国庫負担金 六百二十五万八千円
公共土木施設災害復旧費国庫負
担金 四百二十九万九千円
農林水産施設災害復旧費国庫負
担金 四百三十三万六千円

国庫補助金 九十万一千円
失業対策事業費、学校給食施設
費補助金 六百九万六千円
更生産調整関係、林業構造改善
関係、通年施行関係

農林水産施設災害復旧費国庫負
担金 四百三十三万六千円
大場官行造林立木買受代金
四十二万六千円

民生費 社会福祉法人五城目保
育園貸付金他 七十五万四千円
公衆便所建設工事費他 九十五万五千円

労務費 二百九十八万八千円
失業対策、一般就労者賃金ア
プによるもの他 二百九十八万八千円

農林水産事業費 二千二百八十七万五千円
米生産調整関係補助金 三百八十九万四千円
二ノ沢林道建設事業費 四百二十九万九千円

大場官行造林造林等 五百三十三万六千円
大場官行造林立木買受代金 四十二万六千円

林業構造改善事業補助金 九十万一千円
商工費 一百三十五万六千円

大平山県立自然公園指定促進協
議会、ほたる養殖研究会建設補
助金他 三十四万円

収入総額 二千四百二十四万
支出総額 三千九百五十三万

県委託金 二百三十三万三千円
入会林野測量委託金他
寄附金 二百三十四万四千円
二ノ沢林道事業寄附金他
繰越金 六百四十万円
町預金利息 三百万円
受託事業収入 九百六十四万四千円

大場官行道伐採受託事業収入
町債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

歳出については
総務費 二百二十五万三千円
集落移転補助金及び貸付金他 一百五十一万円

民生費 社会福祉法人五城目保
育園貸付金他 七十五万四千円
公衆便所建設工事費他 九十五万五千円

労務費 二百九十八万八千円
失業対策、一般就労者賃金ア
プによるもの他 二百九十八万八千円

農林水産事業費 二千二百八十七万五千円
米生産調整関係補助金 三百八十九万四千円
二ノ沢林道建設事業費 四百二十九万九千円

大場官行造林造林等 五百三十三万六千円
大場官行造林立木買受代金 四十二万六千円

民生費 社会福祉法人五城目保
育園貸付金他 七十五万四千円
公衆便所建設工事費他 九十五万五千円

労務費 二百九十八万八千円
失業対策、一般就労者賃金ア
プによるもの他 二百九十八万八千円

農林水産事業費 二千二百八十七万五千円
米生産調整関係補助金 三百八十九万四千円
二ノ沢林道建設事業費 四百二十九万九千円

大場官行造林造林等 五百三十三万六千円
大場官行造林立木買受代金 四十二万六千円

民生費 社会福祉法人五城目保
育園貸付金他 七十五万四千円
公衆便所建設工事費他 九十五万五千円

労務費 二百九十八万八千円
失業対策、一般就労者賃金ア
プによるもの他 二百九十八万八千円

農林水産事業費 二千二百八十七万五千円
米生産調整関係補助金 三百八十九万四千円
二ノ沢林道建設事業費 四百二十九万九千円

大場官行造林造林等 五百三十三万六千円
大場官行造林立木買受代金 四十二万六千円

民生費 社会福祉法人五城目保
育園貸付金他 七十五万四千円
公衆便所建設工事費他 九十五万五千円

収入総額 二千四百二十四万
支出総額 三千九百五十三万

土木費 一千二百二十九万五千円
駐車場用地購入費他
教育費 四百九十八万八千円
中学校教育施設整備工事費他
災害復旧費 二百九十七万六千円
農林水産施設公共土木施設災害
復旧費等 三百万円

公債費 三百万円
予備費 一百六十六万九千円
町有債 一千四百九十八万八千円

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

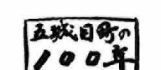
町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等

町有債 一千四百九十八万八千円
集落再編成債、軽車場建設事業
債、土木施設災害復旧債、保育
所建設事業債等



(35)

二つの貯水池 ②
小野 一 二

ダム建設の予定地となるまでは
小倉部落は山に囲まれた平和郷で
あった。水田三十町歩足らずとい
うわずかな耕地を、二八戸の農家
が自・小作でしている。一戸当り一
町歩少々である。
農業だけでは満足な生活もでき
ないことから、近くの山に馬を放
牧し、ワラビ根を売ってネバナ餅
にしたり五城目市で売って生計の
足しにしていた。ネバナ餅は、小
倉ばかりではなく、内川村の特産
であった。今日では生産が絶えた
が、まだ小屋の隅に捨てられて眠
っている。保存を要する民俗資料
である。
そのころ、小倉部落全体のネバ
ナ餅での収入は年間約千円である
現金収入の少ない。としては、
現金のいる副業だけにありがたか
った。
ところが県の設計によると部落
とんどの関係もないダムと貯水池
と水路のために、もともと少ない
水田が八町歩もつぶさる。それが
わかった。年百六十石の取穂減と
なる。ダムに水がたたえられると
放牧場とマガサ場がせぼめられる
こととなる。その代替地として、
ワラビ山を使うしかないから、ネ
バナ餅もできなくなる訳だ。限ら
れた土地しかない部落では、八戸
は移住するしかないと計算する人
もいた。当時の小倉喜平と内川村
助は部落出身だった。部落民は
千業助役をかついで、こぞって反
對を唱えた。
昭和七年度分として、すでに一
万八千円の予算がつくことになっ
ていた工事だったから、県耕地課
は山の中の一か所分の反対運動
は歯牙にもかかた。千業助
役の態度にわたる陳情に、畜産課
長は職を賭しても着工することた
え、反対運動は用地買上げの条件
移転の条件をどうするかにかかわ
っていた。やがて着工は本決まり
になり、馬場目川用排水改良工
事事務所(所長農林技手伊藤廉一)
は敷地買取と実測で忙忙にたっ
た。外小倉貯水池の規模は次のよう
であった。
貯水池面積 約 14ha
貯水量 約 76万3千m³
堤塘 高約 21・5m
同 天 長約 1・26・7m
同 市 約 5・4m
同 下 約 12・3m
まわりには一問中の周回道路が
約4kmにわたってつづいてた。た
められた水は、五城目・富津内・
面瀨、一日市の四町村の水田七
百町歩(七百畝)を一カ月にわた
りかん灌漑できる量である。さら
に除根小路工事が重なり、一二年後
には外小倉ダムと同規模の馬場目
の貯水池が着工するという。空前
の大工事となる。このため、町民
は大人となり景気がよくなったよ
うな気分になった。
総予算十二万円、三カ年継続事
業として馬場目川用排水改良工事
は七年十二月二日五城目小で起
工式を挙行した。武部知事、山本
県会議員も出席した。(C)の項つづく

五城目第一中学校給食室竣工

総工費 千百万七千円

本町では昭和三十六年十月、旧馬川小学校が給食を開始して以来、年々施設の充実に努めてきたが、このたび五城目第一中学校の給食室の完成で、町内十校の全校実施となった。

完全給食の全国的な実施状況は小学校で九二%、中学校では四六%であり、秋田県の場合、小学校が八二%、中学校は五三%となっている。

この給食室の面積は、一八六・二五坪(五六・四三坪)で鉄骨コンクリートブロック造りとなっており、屋根はアスファルトとなっている。

厨房器具の主なもの、ガス回転釜四基、万能調理機一基ガスフライヤー一基等六八種類の備品が納入されておる。



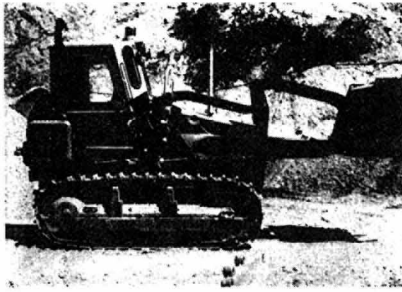
勢ぞろいした厨房器具

左お給食は十月四日から七百二十六名を対象に開始される。

心のもつた学校給食

五城目第一中学校 広嶋元比古

一日も早く学校給食を...



スノーローダー購入

一冬期間除雪力に期待一

町では、雪害建設準備事業の一環としてこのたびスノーローダーを約600万円で購入した。このローダーは冬期間における道路交通確保に活躍するもので、今からその威力が期待されている。

それは、本校生徒七百二十六名の父兄の宿願であり、悲願であった。機熟して十月、いよいよ完全給食が実施されることになった。

(国)(民)(年)(金)

◎老年年金の受給資格期間は年令に依りて短縮

問：国民年金は長期の保険だということとばかりですが、それしても、二十才から六十才まで四十年間もかかれない年金をもらえなければ、あまりにも長すぎると思いますが。

答：四十年というのは二十才で加入した人の加入期間であって、老年年金をうける資格は、納付期間(免除の期間も含めて)が二十五年以上あれば

年令別老年年金受給資格期間早見表

生年月日	昭和46年4月1日以前に生まれた人	昭和46年4月1日以後に生まれた人	受給期間
大正5・4・1以前	55才以上	55才以上	11年
5・4・2	54才~55才	54才~55才	11
6・4・2	53才~54才	53才~54才	12
7・4・2	52才~53才	52才~53才	13
8・4・2	51才~52才	51才~52才	14
9・4・2	50才~51才	50才~51才	15
10・4・2	49才~50才	49才~50才	16
11・4・2	48才~49才	48才~49才	17
12・4・2	47才~48才	47才~48才	18
13・4・2	46才~47才	46才~47才	19
14・4・2	45才~46才	45才~46才	20
15・4・2	44才~45才	44才~45才	21
昭和2・4・2	43才~44才	43才~44才	22
3・4・2	42才~43才	42才~43才	23
4・4・2	41才~42才	41才~42才	24

し昭和五年四月一日以前に生れた人は、その年令に依りて「二十五年」を次の表のよりにして二十年から十年までちぢめておりこの期間に滞納がなければ年金が支給されます。

感謝申しあげる次第。理想的な施設設備、合理的な整った職員、体制はすて整った。心身ともにたくましく、健康な生徒の育成が我々の使命である。

環境美化は 住民一人一人の理解から

(11)

快適に住みよい環境づくりのためには、抜本的な行政施策を行なうことにあると思うが、それを果た現するにはともより、その主旨を定着させ発展させるためには、なんとと言っても深い住民の理解と、

広く力強い協力がなければ本来の目的達成は困難であるので、住民としての住みよい環境づくりのためともどもに努力を続けていきたいものです。

◎ 焼却場の処理について

晴れの県知事表彰二つ

◎ 遺族会永年功労者 菅尾 長氏

昭和二十四年以来五城目町遺族会長として二年(町村合併以後は連合会長)その間一家の柱を支えた遺族の方々の良き相談相手となり、冷たい世間の眼を相違ひながら遺族会を守り立て、今日に至った功績により九月六日、雄和町中学校における第四回秋田県(男鹿南秋河辺)地方大会に於て秋田県知事より表彰された。

◎ 優良老人クラブ仲米長生クラブ

之は仲町米沢町の老人五三名に

このことについてはたびたび住民より、ご指摘とご意見を出されておりますが、町としてもその取扱いについては、町広報やチラシあるいは各種集会、会議等でお伝えしておるところですが、不徹底のむきもあるので今一度おしらせいたします。

残飯類や流しの屑(従来豚にやっていたようなもの)等は、水分を充分にきょうごみ収集用ポリ袋へ、全体の三割程度は混入してもよいので、当面はそのようにして処理されるようお願いいたします。

◎ 粗大不燃ごみの処理について
最近家の修理や新築等によって粗大ごみが大量に排出されておりますが、これらは事前に焼却場へ連絡し(電話三九九五番か柳原繁二三七八番)の上、直接搬入していただきます。

最近川等へ捨てる者があるので困っております。絶対にやめてください。発見されると罰せられます。なお、ガラス類や空缶類はくた

よって構成されている。会の創立は昭和三十九年で、会長は創立以来ずっと現会長渡辺道蔵氏(五城目町老人クラブ連合会長兼南秋河辺連合会長)ですがこのクラブは結成以来渡辺会長を中心によくまとまっております。家庭内外は勿論神社や墓地の草取り、合い日常の行事にはほとんどめれなく参加して、一人の不満のない福徳門満なお爺さんお婆さんばかりである。そうした実績が買われ、今回九月十五日秋田県会館における秋田県敬老会の式場に於て、晴れの表彰を受けられた。

いたわりがふして、ポリ箱等(リノゴ箱程度、十センチ程度)に入れない不燃物の標識をつけて、収集日にし出してくださるようお願いいたします。ごみの収集や他の不法投棄の防止については、前述のようにいたびかお願いしてきておりますが、まだまだ正しく処理されてないで残念に思っております。こうしたことは住民一人一人のご理解とみなで環境を美化していただくのが、五城目第一中学校の理想です。

共同募金のお願

本年も又十月一日から十月末日まで共同募金運動が始まります。期間内に個人役員の方々がお願いいたします。この金は県内の寝たきり老人や心身障害者等々の施設に使われたり子ども事故から守るための施設等に使われます。

暮しの案内

十月の健康メモ

食欲の秋、たくさん食べる事よりも栄養価のある物をとる事が大切。農繁期にそなえて一言。

最近農村のおかあさんたちは授乳してはいるが、最も問題になっているのが貧血。働いている人だけにかぎらず婦人全般に言える事です。ほとんどが鉄分の不足からきています。ふだんから、のり

読書の秋、燈火現しむ頃とよくいわれるが、たしかに秋になって自然界がおつきを見せると読書しようと思うようになってくるようである。

読書の究極的な目標は、いうまでもなく人間形成にある。アールド・ペネットの「文学趣味」を読んだら、本は知識を与える本と、感激を与える本の二種類に大別される」と書いてあったが、いすれにしても読書によって教養を高め人間を形成する糧になることはいふまでもないことである。

最近情報化時代といわれ「テレビ」や「テープ」「レコード」などを始め、書籍にしろも耳で聞く本が多数店舗に見られるようになった。しかし、これらの情報提供と同時に「書籍」や「印刷物」のはんらんも驚くが近代文明の輝かしい進歩を促進したのは事実である。そして街頭には玉石混

やわかめレバーなど鉄分の多く含んだものを十分とるよう心がけましょう。

次に肩こり、腰の痛み、手足のしびれ、不眠、めまいなど感じないでしょうか。あれもこれもあてはまるようではあなたの体ははたしていい証拠です。寝れが蒸散すると「万病のもと」になるといわれる程、疲労を回復させる事が大切です。そのためには十分な睡眠をとる事、授乳した体を回復させ、傷

このの新刊書があふれるようになったのである。こうなると蔵書の数を誇示すること、現代においてはもはや無意味であろう。むしろ、自己の職業関係の書籍のほかに、精神の糧としたとえ数冊でも自分で選択して、自己の教養を高めるのびつたり合致した、すぐれた書籍と真

読書のいざない



指導主事 工藤富雄

剣にとりくみ、おりにふれて読めかすことがないせつになってくると思うのである。書店の調査によると本を読んでいるのは、会社関係の経営にあたる人であるといわれている。これは経営上の必要性からのことであるが、自己の教養を高めることだからであるといわれている。このことは人の上に立

ついた心をいたわつてくれるのが睡眠です。成人では七〜八時間必要です。疲れたから睡眠時間を長くするとういことよりも熟睡が大切です。「星のきまぐれは夜の三倍」といわれる程、前後おそいお客があつて寝不足の場合も相当の疲れなおしに不了了です。

睡眠からならだす中に生じた老廃物を運び去り、きれいにし明日への活力を蓄つてくれます。翌日、前目の疲れを残さないようにしましよ。そのそる体の冬じたくもはじめましよう。特に血圧の高い人は寒さに無理に挑戦しない様に、少しづつ寒さに体を慣らして

つ人間は、たえず自分の教養を高めるために、読書する習慣を身につけることがたいせつであることと意味するものであると思つて。そしてその習慣は子ども頃から身につけると効果的であることはいふまでもないことである。幼少の頃、両親から、祖父母から、先生から読んでもらった本の面白さはおとなになつても忘れられないものである。

わたくしは、小学校に奉職していた頃、子どもに毎日自分の愛読書を持参させておいたが、教室にはいっていないと思つて戸をあげてびっくりしたといふほどであつた。これを毎朝くりかえしたことによつて、しだいに子どもたちに読書の習慣が身について、やがて家庭にその習慣が発展していったことが思いだされるのである。

農地相談

五城目町農業委員会

●農地取得資金の活用について
農業経営の現状を拡大し、自立経営農家を達成しようとする農家に対して、その農地の購入費として農地取得資金の貸付申請を受付けております。

- 取得する農地が二十a(二反歩)以下であること。
- 取得農地を加えて、(一)a(一町一反歩)以上であること。
- 農地を取得する前三年と取得後三年間農地を減少(売らない)しないこと。

以上三要件をみたしておる農家であれば本資金を借りることができ、ます。

このあとの受付は、十月二十日十二月二十日、一月三十日までとなっております。

ヤング登場

仕事とよろこび



坊井地 佐々木 正志

俺は三年前、中学校卒業と同時に大工の弟子として、今の師匠(烏井友司氏)の門をくぐった。「大工」という職業に特別の考えももつたわけではなかったが、ただ、なんでもいから体ごとぶつつけていける「仕事」というものに、あこがれたことは事実である。

身近な人達からは、高校進学を盛んにすすめられたし「高校卒業」の学歴が、今の世の中の常識でもあるからだったろう。だが、割合に思くまされ、からだと、それに、割合と悪くまれない「頭」との調和で俺自身は簡単に切別れたし、「仕事」という労働入学の決心もあつたりとついていた。どちらかといへば、自動車の整備工が好きだった。だがそこはそれ子に対する親のなんとかやで、生前の父の配慮から現在の「大工」という仕事ははじめたわけである。

師匠の仕事はじまんだのが、つまずき、弟子入りをしたのが三月三十一日だった。一週間前に住みこんだ同輩の二人と仲間入りをして、その翌日から俺の「仕事」がはじまつた。

「仕事」と名のつくすべてがそうであるように、自らが実践し、その中から学びとり会得

していかねければならない。かきさき、その目から体験しなければならなかつた苦痛は生やさしいものではなかつた。

大工の仕事といへば、俺たちが常に見て来ている仕事であり、それがなじみ深い余りが「ああこども大工が仕事をしたいのな」位しか感じる以外に、なんでもなかつた。俺の心の中に「この」を使えばいいんだろ。あるいは「の」を使えばいいんだろと、そんな気持ちがあつただけに人一倍の苦勞があつた。